

けんしゅう だより②

中央中等教育学校 授業研究・FEWC 推進部
令和6年10月31日発行

＊第2回公開研究授業後の学年別グループ協議・アンケートを元に作成しています。

＊スペースの都合上、ご意見同士をあわせたり、編集させていただいた部分がございます。

1. 授業の変化

Q:今年度の【学習の個性化を伴った探究的で創造的な学習の導入】をテーマとした授業参観・研修を経てご自身の授業姿勢あるいは単元構想等に変化がありましたか。

はい/ 参考になった点など

- ・「学習の個性化」を意識するようになった。・単元構想を重点的に考えるようになりました。
- ・「個別学習」「協働学習」の選択を含め、発達段階に応じたルールやねらいに迫ることができる課題や仕掛けをもっと工夫していきたい。
- ・皆が基礎力が備わっている段階で、グループの個々の自主的な学習を経て、協働学習していくスタイルは素晴らしいと思いました。
- ・個性化の面で、授業のゴールが一律でなく個々の生徒が目標を達成すればよいということが参考になった。
- ・授業を実施した教員が生徒の活動時間を重視している姿を見て刺激を受けた。
- ・普段の授業ではなかなか難しいが、生徒の個性が伸ばせる教材を取り上げていきたいと思った。
- ・バックワードデザインの重要性を改めて感じた。最終的なゴールにたどり着くために何をしたらよいか、そのための手立て(指導)はどうするか、ということについて考える機会になった。
- ・探究したくなる問の設定の大事さを再認識しました。
- ・個の学習、個性化を伴った学習の時間を考慮するようになった。
- ・試行錯誤させる時間、単元について熟慮するようになった。
- ・自由(creative)の活動中のルールについて大変参考になりました。
- ・美術はもともと個性化のある教科ですが、アイデアスケッチを描くという、アプローチの仕方を個別化した。
- ・個別最適化を実施するうえで、「無法地帯にならないこと」と「それぞれが自分の状況を理解すること」が大切だと思いました。生徒も教師もそれを確認するために振り返りが大切だと感じました。
- ・単元全体を通して生徒に考えさせたり、追求させたりする授業を心がけるようになりました。生徒自身の振り返りから、自分で考えるほうが楽しく学ぶ様子が見られました。
- ・Ms. Arai's art class exemplifies differentiated instruction by offering students an exceptional level of freedom in their projects, allowing each to explore their own strengths and interests. This approach encourages creativity and ensures that each student can learn and express themselves in ways that suit their individual learning styles.
- ・個別、協働を自分自身の学び方に合わせて選択することが主体的な学びにつながると感じた。
- ・今まで、ここまで生徒一人ひとりに任せる授業をする勇気もなかったので、今後の指針にしたいと思った。
- ・これまで以上に「個」の学び(試行錯誤しながら問題解決におかう)や、協働学習のなかでの意見交換(上手に考えを伝えるためには)がスムーズに進むよう、教材や声掛けを工夫するようになった。
- ・書く活動を見せてもらったが、ただ書かせるのではなく、きちんと目標や課題、ルールを定めることで、生徒の学習の質も上がるのだと思い、自分が活動を設定するときに参考にしたいと思った。
- ・生徒のグループ学習の評価や生徒への関わり方について、取り入れてみたい場面がありました。
- ・自由に出歩いて話し合えるスタイルに加え、グループにすることで話し合いに参加できる生徒がいることにも考慮していたこと。学習の進んでいる生徒を見極め、個別活動できるような声掛けするタイミングなど。

自分自身の授業で同じような形態を取るとしたらどこでどの程度どのくらいの時間を使って行えるのか、具体的に考えていきたいと思えるようになりました。

・大きな変化ではないかもしれないが、プリント教材の質問の設定ひとつとっても、「この質問に、生徒が試行錯誤しながら進んでいけるような要素を含めることはできないだろうか」と考えるようになってきた。

・生徒が話し合いの中で課題に気づき、その改善のために必要な方法を見つけていくように授業を組み立てた。1年生の体育では課題に対してどう取り組んでいくのがよいか、ヒントや場の工夫をこちらが準備することも必要だし、体育においては、イメージしたことがそのまま実践できるとも限らないので、新たなつまずきに対して解決していく手立てを考えていく必要があると感じた。

「学習の個性化を伴った探究的で創造的な学習の導入」が困難な事情など

・私自身が、生徒に対して気にかけているということに自覚した。それによって生徒同士の学び合いの機会を奪ってしまっている可能性もあると思った。

・どうしても教えようとする姿勢が出る。あと、教科の特性かもしれないが、生徒が「正解」を求めてくる感じもあり、私の発問も発想をなかなか自由なものにもっていけない。

・単元や与える課題によっては個性化が難しい(向いていない)ものがあると考えた。全ては個性化するのではなく、1時間また単元全体の中で、個別学習と協働学習の使い分けを考えて授業を構想したい。

・全員に理解させたいと思うあまり問いのレベルを下げすぎてしまったり、教員が説明しすぎてしまったりすることが自分自身の授業で多々あったことに気付かされた。

・「協働学習」の場面で、「ねらい」に迫ることができずに終わってしまうことがある。

2. 学年別協議

1学年 高岩先生 保健体育

【授業者の補足・説明】

・マットや陸上とは違い、球技は難しい。運動量が減ってしまう。

前半:自分の課題を見つめ直し、ペアで取り組む(個人での課題)

プレー以外にもできることを探させたい

→声掛けやフォーメーション、全体の動きを見るなどの視点を持たせたい。

→フォーメーションを見せながら気づきを与えた。

机上の空論にならないように、できる実感を持たせる技能を身に付けさせるためには?

探究的で創造的な学びや学習の個性化を実現する課題設定及び授業展開について

・ICTを上手に活用できていた。自分を振り返ったり、課題感を自分でつかむことに活用ができていたように感じる。

・中等生は話が得意。フォーメーションの相談等はよくできていた。改善点を言い合うことも簡単にできる。技能に繋げさせるには、難しいか?シンプルな運動神経の問題もある。

・学習指導要領に書かれていることが高難度である。課題を見つけることはよくできていたと感じる。理想的な動きと自分たちの動きを比較して、気づくことができればより探究的な活動になるのではないか。

・個人の探究とグループでの探究のバランス感。学習の個性化・指導の個別化の違い。

2学年 萩原先生 国語

探究的で創造的な学びや学習の個性化を実現する課題設定及び授業展開について

生徒の学び

・学び方の選択を自由に行っている子もいた。途中から学び方を変えた子もいた。そこが良かったと思います。一人でもくもくとやっている子もいて、よかった。・グループでやっている子達は、上手にコミュニケーションをとっていた。

・ワイワイやっている割には、テーマが決まっていたのですごいと思った。

・生徒が楽しそうにやっていたこと、環境づくりが日頃から行われていることが分かった。

▼賑やかすぎて、個別でやっている子のいづらさはどうだろう?そこが気になった。

▼途中、だれている子たちもいた。一回止めて軌道修正してもよかったのではないか。

▼どのようなテーマや根拠が主観的なのか、客観的なのかを思考する場があっても良かった。そうすれば、テーマや根拠の吟味がより深まったと思われる。また、今後「書く」を取り入れた授業の中で、「三角ロジック」を意識して書くとしたときに難しさを感じたら、「なぜ難しいのだろうか?」という疑問や、その疑問への解決そのものが学習の個性化に繋がっていく。系統性や身につけた力の活用も生徒の中に落とし込みたい。

授業展開

・学習形態の自由度を高めていたこと、他教科でも行っていることで、繋がりがもてている。

・学び方のマナーを示した上での学習形態。マナーの提示があったことで生徒だけでうまく進められていた。・今までにない形で驚いた。スライドの内容がわかりやすかった。・学習指導要領のどの指導事項に基づいた指導なのか明瞭になっていた。・読み物が「美」という抽象的な概念に書かれているもの。ここから「三角ロジック」という視点で書いていたのがよかった。

▼テーマ選定をした後が気になる。書きやすいテーマと書きにくいテーマがある。根拠が主観的になりやすいものもあった。どういう根拠が主観的なのか客観的なのかも検討させたいので、テーマ選定させてもいいかも。

?生徒が課題に取り組んでいるときに、先生はどこにいるべきなのか。

→日頃は黒子に徹する。あとは黙って机間巡視をしながら評価をしたり、個別にやっている子については、必要に応じて声をかけたりしている。

?「個別」と「協働」した場合、「協働」はどのようなことを高めていくのか。

→他者とコミュニケーションをとりながら考えを精緻化させていく。

3学年 新井先生 美術

探究的で創造的な学びや学習の個性化を実現する課題設定及び授業展開について

生徒の学び

・各々が彫りたい、デザインしたいということをしていてよかったのではないか。

・同じ題材なのに、各々が進行の順番を決めていた。

・「〇〇先生が教えた作品だよ」というのにならず、自らの個性を発揮できる授業であった。

・自分の考えたことを表現する場としてとてもよかった。

・様々なプロセスを踏んでいる人がいる状況が、授業が成功していることを表していたのではないか。

・「何でもあり」になってしまうのではなく、振り返りを行うことで進度も分かる。

・学習の個性化や個別最適化に必要なことは、自分の位置が客観的にわかることだと思う。

授業展開

・発想を刺激するものが周りにあって、ビビッとくる。オープンな環境づくりもよかった。

・振り返りのシェアをしていたのが、また自分の創造力を上げるのにもよかったのではないか。机間巡視しての意図的指名が効果的であった。

4学年 斎藤先生 数学

【授業者の補足・説明】

・プリントで、まず取り組むべき問題に星印をつけておき、学習者それぞれのスピードに合わせて取り組ませる。星印だけでも取り組めると、一通り問題のパターンを学習できる。

・ n 次方程式では解がいくつか?など生徒に問うことで解の特徴を考えさせる。

探究的で創造的な学びや学習の個性化を実現する課題設定及び授業展開について

・個々の理解度やそれぞれが考える課題を把握して、できるだけ個別に対応していく。

・プリントの最後に生徒のコメントを活用し、生徒が疑問に思ったところ(関心)に合わせた問いを次回以降出していく。

・グループ学習を適宜取り入れる→通常でも自由に周りの生徒同士で話し合う雰囲気はある。強制的にグループにすることでふだん話しかけにくい生徒も話すことを期待している。

・グループ学習で教えてもらって理解した気持ちになったが。。。の生徒はどうするか?

5学年 田中先生 数学

【授業者の補足・説明】

- ・探究的で創造的な学び⇒数列という単元なら生徒たちだけで学び、教師は教えない、というチャレンジができると考えた。教科書についてのプリントは配布した。発展クラスでもレベルの差が開いているため、そもそも個別の学びが必要であると思う。すべての単元でできるわけではない。
- ・事前に(生徒の)発表内容は知らなかった。生徒が自分で何かを作る=自分で題材を作るという姿勢に驚いた。

探究的で創造的な学びや学習の個性化を実現する課題設定及び授業展開について

- ・教えない授業とはどんなものなのか気になっていた。先生が不安になってしまうのかもしれない。革新的であった。
- ・すごい勇気がある授業。数列を学ぶ意義を発表するようにあらかじめ伝えてあったからこそ、発表できていた。生徒はよく考えていた。生徒によって観点が違うのも面白かった。
- ・生徒にテーマ選びからさせるのは勇気がある。高校のレベルを超えた上位の生徒の発表に驚きとともに、相当こちらも勉強しておかないと生徒のニーズに答えられない。
- ・自分が生徒だったときのことを思い出すと、数学が得意な生徒は授業は「分かっている内容」だと感じていたため、自分が興味があることをできる授業という点でよかった。
- ・数学の授業は問題を解きさえすれば良いとおもっていたが、興味があることを生徒が考え発表するのは面白かった。
- ・生徒が生き生きとしていた。数学を学ぶ意味、数列を学ぶ意味を生徒が実感をもって発表できていた。
- ・微積などは先生の説明が必要だが?・・・全部を生徒に任せる訳では無いが、条件を整えれば何かしら生徒に創造的で探究的な活動ができるのではないか。
- ・「教科書の証明をきちんと理解しないとだめ。公式を覚えるだけではだめ。」と女子生徒が論じていた。⇒今までの授業の中で「教科書が大事」と繰り返して言ってきたおかげか。
- ・理系の上のレベルにはできるのかもしれない。探究心があるからこそできる。

6学年 前原先生 化学

【授業者の補足・説明】

今回のグルコースの分子構造は難解なので、普通はまず構造を生徒に示し、教師が特徴を説明していくのだが、今回は研究授業のチャレンジとして、生徒自身が分子モデルを用いて試行錯誤で構造を探究していくように授業をデザインした。資料を数種類用意してそれらを参考にしながら生徒が進んでいくように授業展開を図ったが、生徒が資料に当たる時間をもう少し確保できるとよかったと思う。全体として説明不足の感があったかもしれないが、今回はあえて答えを簡単に明かさないようにした。

探究的で創造的な学びや学習の個性化を実現する課題設定及び授業展開について

- ・授業のゴールをどこに設定し、それに対して今日の授業の結果はどうであったか。
- ・授業が終わった後も、分子構造の「なぜ?」を生徒同士で延々と議論し続けている姿が印象的であった(探究的な授業として成功していた)。
- ・題材が難解でついていけず、グループ内で参加できていない生徒もいたようだが、それをどうしたらよいか。
- ・提示する資料の選択が適切で、考える材料として有効であった。
- ・設定した問いが生徒にとって「探究したくなる問い」であったことが良かった。
- ・構造モデルの道具を用いて立体化して考えさせ、「もの」を実際に動かして各自自由に試行錯誤させたことが個性化を助け、学習活動を興味ある楽しいものにしていく。

3. 研修を通じて学んだこと

- ・「自分のペース」の授業で、教科書の内容を超えている生徒と超えていない生徒同士で楽しく学び合える。
- ・教員は学習のサポートをすればよいということが分かった。
- ・一斉授業の中で学習の個性化には非常に難しいと思いました。様々な選択肢を用意するのは授業準備が大変ですが、どのように終結させるのがより難しいと思いました。やらせっぱなしになってしまいそう…。
- ・学習の個性化は一見、自由に見えるが「規律」がきちんとしていないと成り立たない

- ・学習指導要領や参考書籍を読み、自分の授業を準備していきたい。
- ・できる生徒にはそれ用の対応を考えなければならないが、単元によってはほとんどかかわらなくても生徒自身で学べるのがわかった。
- ・学習の個性化と指導の個別化を教員がしっかりと理解しながら授業をすることが大切である。指導の個別化はわりと身近に感じる。だからこそ研究会のテーマである個性化についてより考えたくなった。
- ・授業後も生徒が話題にするような授業ができると、探究につながるのでは。
- ・個性化の方向性について示唆に富む授業でした
- ・個別化個性化の授業が何でもありの授業にならないためにおさえるべき点が明確になった。具体的には、生徒一人ひとりの今の位置を客観視させることと、自己の学習内容を振り返りで把握させること。
- ・授業のまとめや振り返りでは、個別のアプローチの仕方、または達成度を確認し、自分の位置などを客観視していくことが大切だと分かった。
- ・生徒らの発想を刺激する環境づくり。
- ・美術は音楽と同じく、No Border 的な教科であることを改めて感じました。
- ・個人学習と一斉学習のバランスが大切であること。
- ・個別最適化をただの個別の学習にするのではなく、考えるための手立てを複数用意したりふりかえりをおこなって自分の現状を理解したりする活動をいれようと思いました。
- ・個別化する際の知識や選択肢をどう身につけさせるかは課題だと思います。継続していく中で力がついていけば良いです
- ・自由度の高い授業形態を崩壊させないために、事前のマナー・ルールの設定や今回ならば「三角ロジック」という共通の手法によってまとまりを取っていることの大切さを実感した。
- ・In such lessons, meaningful evaluation can be very time consuming.
- ・わからないからこそ探求したくなるということもあると思うので、全員に同じゴールに到達させたくても、生徒の理解度には差があるので学習動画を紹介したりと個別最適な学習を促し、授業ですべてを完結させようとしすぎない意識も大切だと感じた。
- ・グループ活動の際の教師の立ち位置、生徒との関わり方について学んだ。
- ・この単元を学ぶ意義、興味を持った問題、題材を生徒について生徒に発表させることはとても有意義である。また、創造的な学習をするために、問題の条件を変えさせるなどして、生徒に考えさせることは有効であると感じた。映像をみることで自分たちができていること、できなかったこと、どのようにすればよいのか、等がわかり、それをもとに各自が話し合いのなかで改善にむかっていた。技能的には難しいところもあるが、知識・理解としてはとても頑張っている様子が見られた。多くの先生方の授業を見せていただきながら、私自身の授業改善にも努めていこうと思います。
- ・個別か協働かという学習のスタイルの選択ができるのは、安心できる教室の雰囲気普段から大切にしているからなのだと学ぶことができた。
- ・自分のペースで学べることは達成感や充実感につながるということがわかった
- ・学ぶことが楽しいと思えるような環境づくりを教師主体の授業であっても意識して行っていくことで、生徒の主体性が然るべきタイミングで活かされ、それによって探究的で創造的な学習が可能になるのだらうと理解できた。
- ・実物(化学の分子構造モデル)を使って試行錯誤するという「体験的な」個性化の授業を見せていただき、自分の教科ではどのようなことができるかを、考えてみたいと思った。
- ・個別か協働か、生徒が学びの形態を選択できる形態はともすると共存が難しそうだが、学びのマナーについて最初に提示するというのは勉強になった。
- ・ルーブリック等を活用して、目指すべき生徒の姿を明確にし、その目標に迫れるような仕掛けを伴う「学習の個別化」や「協働学習」を行っていくことが大切。
- ・新しい学習スタイルの実際を、自分の担当教科だけでなく、学べたことは有意義でした。この授業では、数学を学ぶ意義について考察することによって、さらに数学の世界のすばらしさに生徒が入り込める仕掛けがあったと思いました。
- ・グループ内でのできない生徒への対応や授業のゴールについて考えることができた。また、答えのない問を出すことについての重要性を再認識した。